**第6章 林業**

**概況**

　府下の森林地帯の大部分は、隣接府県境沿いの周辺部に存在し、その森林地帯の大部分は暖帯林に属しており、大別して北摂、生駒、金剛、葛城、和泉の５地域に分けることができる。  
　これらの森林地帯には「あかまつ」の天然林が各所に見られ、また、落葉広葉樹林も全域に見られるが、特に北摂地域に多く分布している。  
　人工林についてみると、「くろまつ」が葛城、和泉地域に多く見られ、北摂、金剛、葛城地域の一部には「すぎ」、「ひのき」が多く分布している。これらのうち金剛、葛城地域の「すぎ」、「ひのき」は、府下で最も集約的な林業が営まれている。

**林野面積**

　府下の林野面積のうち、国有林野面積と官行造林面積は前年と変わらず、それぞれ1043haと223haである。民有林野面積は前年の５万6921haから159ha （0.3%）減少し５万6762haとなった。それぞれの大阪府総面積18万6786ha （昭和60年10月１日現在）に占める割合は、国有林野面積が0.6％、官行造林面積が0.1％、民有林野面積が30.4％で、府下の林野の大部分は民有林野である。  
　民有林野のうち、立木地は前年より44ha減少して５万4091haとなった。これは民有林野面積の95.3％を占めており、その内訳は人工林が2万6054ha （構成比48.2％）、天然林が２万8037ha （同51.8％）となっている。また、樹種別内訳は針葉樹が３万9161ha （構成比72.4％）、広葉樹が１万4930ha （同27.6%）となっている。  
　民有林野面積を市町村別にみると、能勢町が最も多く7789ha （構成比13.7%）であり、以下、河内長野市が7388 ha （同13.0％）、高槻市が4542ha （同8.0％）の順となり、この３市町で全体の約３分の1 （34.7％）を占めている。

**林野蓄積量**

　府下の林野蓄積量のうち、国有林野蓄積量と官行造林蓄積量は前年と変わらず、それぞれ12万1000 m3と6500m3である。民有林野蓄積量は前年の488万7000m3から１万m3（0.2％）増加して、489万7000 m3となった。  
　民有林野蓄積量のうち、人工林は303万2000m3（構成比61.9％）、天然林は186万5000m3（同38.1%）である。また、樹種別内訳は針葉樹が435万8000m3（構成比89.0%）、広葉樹が53万9000m3（同11.0％）となっている。  
　民有林野蓄積量を市町村別にみると、河内長野市が最も多く100万1000m3（構成比20. 4％）であり、以下能勢町が43万4000m3（同8.9％）、高槻市が43万2000m3（同8.8％）の順となり、この３市町で38.1％を占めている。

**苗木生産量等**

　山行造林用苗木の生産量は、前年の106万5000本から17万8000本（16.7％）減少して88万7000本となり、３年連続して減少した。樹木別にみると、「ひのき」が最も多く77万5000本（構成比87.4％）であり、以下、「すぎ」が５万7000本（同6.4％）、「くろまつ」が５万2000本（同5.9％）、「あかまつ」が3000本（同0.3％）の順となっている。  
　林産物素材生産量は前年より3000m3減少し、２万4000m3となり、従来からの減少傾向が続いている。  
　他府県への林産物移出量は２万3000 m3であり、移入量（外材を含む）は95万9000m3であって、移出量は移入量に比べ圧倒的に少ない。